

事務事業マネジメントシート(平成29年度実績と平成30年度計画)

平成31年 3月11日更新

事務事業名	合志市総合政策審議会運営事業				<input type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	1	自治の健康		所属部	総務部	課長名 大茂 竜二
	施策	1	市民参画によるまちづくりの推進		所属課	企画課	担当者名 曾我 陽子
	施策の柱	1	地域づくり(まちづくり)人材の育成		所属班	企画広報班	(内線) 1253
予算科目	会計一般	款 2	項 1	目 11	事業連番 10337	根拠法令 合志市総合政策審議会条例	成果優先度評価結果 : ③ コスト削減優先度評価結果 : ①
終了、開始年度	<input type="checkbox"/> 29年度で終了 <input type="checkbox"/> 29年度から開始				事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 18 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (~ 年度)	

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	合志市総合政策審議会条例に基づき、審議会の運営を行なう事業である。審議会は、委員20人以内で構成されている。平成18年度合志市総合計画の策定にあたり、計画の策定審議にとどまらず、市の重要事項を審議する市長の諮問機関として、総合政策審議会を設置した。審議会は、市の重要施策等について、市長の諮問に応じて答申することの他に、市総合計画の進行管理に行政評価システムを活用し、その外部評価機関としての機能を持つなど、幅広い役割を担い、一つの機関で様々な重要事項を審議できるように設置された。(審議会へ市民からの公募委員を選任することで、市民の意見を反映できるように、市民参画のまちづくりを推進する役割を担っている。)平成20年度からは、ふるさと創生基金事業に係る選考委員会として、また、平成23、24年度は、事業仕分け(試行)の対象となる事業選定の役割も担い、平成25年度は名称を改めた事務事業検証委員会へ6人の委員を選出した。なお、事務事業検証会は26年度で廃止した。
【業務の流れ】	①委員の選出(案)作成→公募委員選出(広報紙、市ホームページへの掲載、申込み受付、決裁)、各種団体からの推薦と本人の承諾事務、委嘱に伴う事務、②開催前=会長と副会長との事前打合せ(通知前)、会議資料準備、通知送付・資料配付、開催の告知③開催時=会議進行(議事の進行は会長)、説明、回答、④開催後=報酬・費用弁償の支給事務、⑤議事録作成、前回事務録ほか審議会に関する資料等の市ホームページへの公開。
【主な予算費目】	報酬、旅費(費用弁償)、役員費
【意見や要望】	議会では、当初審議会委員に議会議員を入れるかどうかで議会内の検討が行なわれ、平成18年度は各常任委員会の副委員長が参画、平成19年度の議員改選後は、各常任委員長が参画していた。しかし、議会総務常任委員会では、市長の諮問機関である審議会に議員が入ることについて疑問視する意見があり、選任委員からも審議における意見が出しにくいという声があったため、平成22年7月の任期満了による委員改選時には、議会から選出しなくなった。

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

1 事務事業の目的と指標	新規・拡充区分: ①手段(主な活動) 29年度実績(29年度に行なった主な活動)(DO) 平成29年度は、計5回の会議を開催し、平成28年度の施策評価作業(第2期基本計画の進行管理)、評価結果に対する報告、確認を行なった。	30年度計画(次年度に計画している主な活動)(PLAN) 平成29年度の施策評価作業(基本計画の進行管理)、評価結果に対する報告、確認
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位) 回 ア: 総合政策審議会開催回数 イ:	予算の主な増減の理由 審議会開催を1回減にしたことによる報酬、費用弁償の減
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位) 人 ア: 審議会委員数 イ:	② 対象指標(対象の大きさを表す指標) ア: 審議会委員数 イ:
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位) 回 ア: 円滑に開催できた審議会数 イ: 答申件数	③ 成果指標(意図の達成度を表す指標) ア: 円滑に開催できた審議会数 イ: 答申件数
*③成果指標設定の理由と30年度目標値設定の根拠 ・円滑に開催できた審議会数を見ることで、会が円滑に運営できているかどうかを判断できると考え設定した。また、答申件数によって市長の諮問に対し十分な意見、答申を出してもらうことが確認できると考え設定した。		総トータルコスト 全体計画 ~ 年度 0

(2) 各指標・総事業費の推移	単位	27年度	28年度	29年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
		実績(決算)	実績(決算)	目標(当初予算)	実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
① 活動指標	ア 回	6	5	6	5	6	6	6	6
	イ								
② 対象指標	ア 人	19	20	20	20	20	20	20	20
	イ								
③ 成果指標	ア 回	6	6	5	5	6	6	6	6
	イ 件	1	1	1	1	1	1	1	1
投資入費量	国庫支出金	千円							
	都道府県支出金	千円							
	地方債	千円							
	その他	千円							
	繰入金	千円							
	一般財源	千円	581	496	980	496	741	861	861
	(A) 事業費計	千円	581	496	980	496	741	861	861
	(A)のうち指定経費	千円	356	289	593	289	445	445	0
	(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
	正職員従事人数	人	5	5	5	4	5	5	5
延べ業務時間	時間	440	1,355	500	710	500	500	500	
(B) 人件費計	千円	1,633	0	1,992	2,808	1,992	1,992	1,992	
トータルコスト(A)+(B)	千円	2,214	496	2,972	3,304	2,733	2,853	2,853	

事務事業名	合志市総合政策審議会運営事業	所属部	総務部	所属課	企画課
-------	----------------	-----	-----	-----	-----

2 評価の部 (CHECK)

*原則は29年度の事後評価、ただし複数年度事業は29年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①29年度目標達成度評価	<input checked="" type="checkbox"/> 達成した <input type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【理由】 会議を5回開催し、施策評価作業への参画を適切に行なった。
	②30年度目標達成見込み	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 審議会の運営や答申件数については、委員へ早めに日程を知らせたり、事前に資料を提供することで円滑な会議運営ができ、目的は達成できる。
有効性評価	③成果の向上余地	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】 答申件数は、諮問に対するものであり、重要事案に対して適切に答申できる状態を継続することが求められる。諮問に至る審議経過や出された意見等を公表することによって、市民のまちづくりへの関心を高めることが期待でき、向上の余地はある。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他の諮問機関等との連携、統合は考えられるが、本審議会に審議事項を委ねる場合が多く、現時点ではできない。平成20年度からふるさと創生基金事業に係る選考委員会としての役割も担うこととなった。平成23年11月に行なわれた市長等による審議会等統廃合ヒアリングにおいても現行のままとなった。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 審議会委員の数を20人以内の体制で運営している。審議会回数を減らすことが考えられるが、諮問と審議案件によって事業費は必要であり、これ以上の削減余地はない。
	⑥人件費 (延べ業務時間) の削減余地	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】 開催回数を減らすことによって審議会に当たる職員の人件費を削減することが考えられるが、経常的な運営に係る人件費は削減の余地がない。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】 条例に基づき、市が審議会委員を委嘱して構成しており、公平・公正である。公募による委員選出についても、広く広報等で呼びかけて募集しており、公平・公正である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】 <input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由】 運営は、行政。答申は審議会、と明確に分担が来ている。また、審議会の設置については、地方自治法第138条の4の規定による設置であり、市が担うべきものである。

3 評価結果の総括 (CHECK)

平成29年度は、総合計画の進行管理について、行政評価システムを活用し、3回の審議を経て市長へ提言が行なわれた。さらに、合併検証報告を行った。年間5回の会議は、円滑に実施できた。

4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (ACTION)

(1) 今後の事業の方向性 (改革改善案) ・ ・ ・ 複数選択可

- 廃止 休止 目的再設定 事業統廃合・連携 事業のやり方改善 (有効性改善)
事業のやり方改善 (効率性改善) 事業のやり方改善 (公平性改善)
現状維持 (従来通りで特に改革改善をしない)

(2) 改革・改善による期待成果
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持			
	低下			

(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題 (壁) とその解決策